

東京、埼玉の沖積低地を主とした被圧地下水頭について

Characteristics of confined groundwater head in mainly alluvial area of Tokyo and Saitama

三宅 紀治 [1]

Noriharu Miyake[1]

[1] 清水・技研

[1] Institute of Tech., Shimizu Corp

東京の沖積低地では、揚水規制による揚水量減少のために1970年代～1980年半ばには深い被圧水頭が急激に回復した。上昇する地下水頭によって地下構造物への浮力が増すため、地下駅のような地下施設の不具合リスクが顕在化している。一方、東京近くのある地域では近年においても比較的多くの地下水が、揚水量が減少しつつも汲み上げられている。そのため、東京低地の地下水頭は依然として緩やかに上昇している。上昇の程度を予測することは、地下水上昇によって生じる浮力のようなリスク対策や地下水の有効利用の検討に必要である。ここでは次項に関し、最近の状況を含めて述べるものである。

- 1) 東京、埼玉の低地における深さ100m以浅、以深の地下水頭の平面分布
- 2) その周辺における地下水頭の断面状況
- 3) 東京低地における平均年地下水位と埼玉県、千葉県数地域の揚水量との関係
- 4) その他これらに係る事項